

## 第 48 回日本骨折治療学会学術集会 ヌーンタイムレクチャー4

# 骨折の保存療法と外固定法



日時：6月24日(金) 12:00～13:00

会場：第4会場（パシフィコ横浜 会議センター 5階 502）

座長



### 今谷 潤也 先生

(岡山済生会総合病院 副院長)

演者



### 高畠 智嗣 先生

(西宮渡辺病院 外傷整形外科部長)

■認定単位：日整会専門医単位 (N)1単位

■必須分野：[2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)または

[13] リハビリテーション(理学療法、義肢装具を含む)

## 「骨折の保存療法と外固定法」

高畠智嗣先生

(西宮渡辺病院 外傷整形外科部長)

保存療法の減少による外固定技術の低下は、手術予定の骨折患者の治療にも影響している。他院への転送や手術までの待機期間に骨折肢はシーネ固定されることが多いが、シーネが拙劣だと手術予定部位の腫脹が増悪し、日常生活や検査のための体動で骨折部の痛みが増強する。シーネを固定する包帯が伸縮帶で緩いと骨折部の安定は望めない。上肢でよく用いられる前腕中間位での上肢後方～手尺側のシーネは上腕骨や前腕骨の骨幹部骨折の安定化には不向きだし、下肢ではフェルトパッド付きスプリント材1枚で作る下肢後方のシーネでは脛骨骨幹部骨折を安定化できず、患者はトイレに行くのも苦痛である。手術予定であっても外固定法を丁寧に考えなければならない。

外固定の目的は骨を安定させることであり、骨と外固定の間に軟部組織が介在することを意識して、外固定が体表の形状に合うようにモールディングすることが重要である。しかしキャスト作成に手間取ったり必要以上に厚く巻くと、巻き終わった時には硬化が始まっていて、モールディングしたくてもできない。体表の形状に一致しない土管のようなキャストは強固だが、キャスト内で骨が動いて外固定の意味がない。

外固定のモールディングは骨を安定させて骨折部の痛みと腫脹を軽減させるので、骨癒合に有利なだけでなく癒着や拘縮を軽減させる。橈骨遠位端骨折の前腕キャストで手部を丁寧にモールディングすると、母指球を完全除圧しても固定性に影響しないので握ってつまむことができる。前腕部を丁寧にモールディングすると、上腕までの固定が不要で日常生活に手を使うことができる。独居老人でも保存療法は可能で、肩や手指の拘縮は稀である。保存療法の機会が減っても、外固定は自主トレができる。模擬肢で練習するのも良いが、同僚とお互いに装着しあうことを勧める。自分が外固定を装着されるといろんなことが分かる。業者が提供する外固定の冊子や動画も有用である。

### 日本シグマックスの外固定法スキルアップコンテンツのご案内

## 四肢外固定の奥義—キャスト・スプリントの作り方—

監修 高畠智嗣先生(西宮渡辺病院)

冊子版

全18種類



▶各種固定法とキャスト除去に関する全18種類のコンテンツの閲覧が可能です。  
※冊子形式(A4) 32頁

動画版

全22種類



▶各動画は5分以内のため、短時間でご確認いただけます。

お申込みはこちらから! ▶▶▶

